

水田におけるスクミリンゴガイの駆除とそれと誤って駆除されたオオタニシ

○中村有加里・深瀬 徹

(岡山理科大学獣医学部)

スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* は、一般にアップルスネールあるいはジャンボタニシと称されているリンゴガイ科 Ampullariidae の巻貝である。南米の原産であるが、アジア地域に広く移入分布しており、日本でも東日本以西の各地に定着している。スクミリンゴガイは、その黄変個体がゴールデンアップルスネールといわれて観賞用に販売されているが、その一方、自然界では水稻を食害することが多く、一般に駆除の対象とされている。

このたび、水田でスクミリンゴガイとして駆除された巻貝のなかにオオタニシ *Heterogen japonica* を認め、これらの形態の比較等を行った。

＊

2025 年 8 月に愛媛県松山市内の稲作中の水田で外来種のスクミリンゴガイとして駆除された貝 160 個体を観察したところ、そのなかにスクミリンゴガイとは異なる 2 個体の巻貝を認めた。この 2 個体は、その形態の特徴からオオタニシと考えられた。

ここで、スクミリンゴガイ (n=158) の大きさは殻長が 11.5–37.0 mm、殻幅が 9.9–32.4 mm で、殻長／殻幅比は 0.95–1.34 であり、重量は 0.3–10.7 g であったのに対して、オオタニシ 2 個体の大きさは、殻長が 39.7 mm と 41.5 mm、殻幅が 29.2 mm と 27.9 mm で、殻長／殻幅比は 1.36 と 1.49 であり、重量は 14.2 g と 13.8 g であった。

上記のオオタニシ 2 個体を研究室内で飼育したところ、飼育開始の翌朝には 2 個体と 3 個体の稚貝が産まれていた。稚貝はピラミッド状を呈し、殻長 4.9–6.1 mm、殻幅 4.5–6.1 mm、殻長／殻幅比 0.96–1.13、重量 0.03–0.05 g であった。

＊

これらのオオタニシは、水田でスクミリンゴガイと誤って駆除されたものである。スクミリンゴガイは外来種であり、農業被害をもたらすことから、しばしば駆除の対象とされているが、オオタニシは日本の在来種で、現在は環境省の「レッドリスト 2020」に準絶滅危惧として掲載されている。水田でスクミリンゴガイを駆除するとき、作業効率などのことから難しいと思われるが、他種の貝類の錯誤捕獲が生じないように注意することが望まれ、たとえばオオタニシの保全のためには貝類の鑑別が必要であると考えた。